

ベンチャー体験工房 2



■ 宇宙リモートセンシングデータの利活用



会津大学発“宇宙”ソフトを世に出そう！

これを読んでいるみなさん！私達と一緒に宇宙のデータを使って、ソフトウェア開発や、データキュレーションを体験しよう！

担当教員：出村,平田,小川,本田,北里,奥平,石橋

概要

リモートセンシングデータで課題解決型学習

履修生はデータキュレーションとソフトウェア開発の2グループに分かれ、テーマ別に互いに成果をキャッチボールしながら進め、公開の成果発表会を行います。

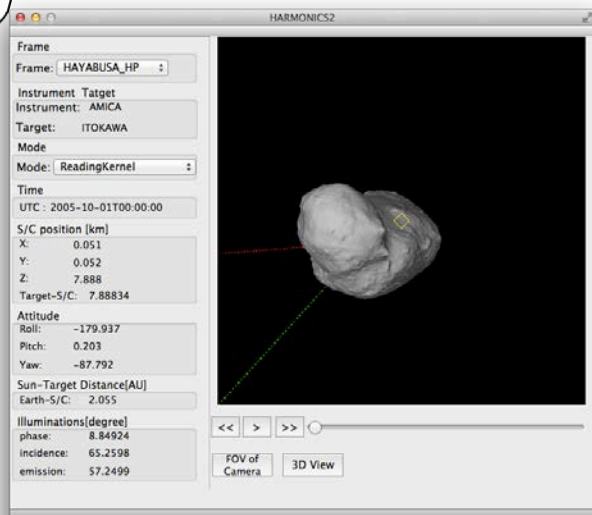
各国宇宙機関から提供されているオープンデータやサービスを出発点として、新たな価値の付与と配信、アイデアを形にする段階から実際のソフトウェア開発までを体験し、会津大学発ソフトウェアのブランディングを目指します。

深宇宙探査データ、地球観測衛星データ、測位情報などが対象です。

「はやぶさ/はやぶさ2(小惑星)」「かぐや(月)」「国際宇宙ステーションたんぽぽ」および将来火星衛星探査等ミッションに参加しての利活用も視野に入れています。

本コースは、文科省・宇宙航空科学技術推進委託費に基づいて行われます。

事例



2005年の探査機はやぶさ初号機の小惑星 Itokawa ランデブーにおいて、会津大生の開発したカメラ視野シミュレータ「HARMONICS : HAYABUSA Remote MONItoring and Commanding System」がプロジェクト理学チームの観測計画立案に使われました。これは学生の“世代”を超えて引き継がれ、現代の GUI ライブラリで換装(左図)されて甦り Ueno+(2017)、再び「はやぶさ2」に提供しようとしています。このような、学生の開発するソフトやデータを世に出していくコースです。